

徳島は、自然と文化と食材と人情の宝庫

徳島県は、四国の東岸に広がる日本有数の自然の豊かな国です。関西とは明石海峡大橋と大鳴門橋の二つの橋で結ばれ、神戸や大阪から徳島市中心部までは、神戸淡路鳴門自動車道経由で、1時間半から2時間弱の至近距離にあります。

徳島県の数ある観光資源の中で全国的に著名なものとしては、まず、次の諸点が挙げられます。

最大直径20mにもなる「鳴門の渦潮」や日本三大盆踊りの一つ「阿波踊り」

一世を風靡した「阿波藍」や平家落人伝説が語り継がれる「日本の秘境・祖谷」

ウミガメが産卵のため上陸する「美波町の大浜海岸」(この美波町と周辺地域を舞台にしたNHKの連続テレビ小説「ウエルかめ」は、平成21年9月から平成22年3月まで放映されます。)

弘法大師が開いたと伝えられる「四国霊場八十八カ所」

さらに、瀬戸内海国立公園や二つの国立公園を有し、剣山や吉野川、紀伊水道などの豊かな大自然やその景観美が随所に見られる地であるほか、スダチや鳴門ワカメをはじめとする山・海・里・川の幸にも恵まれ、多彩な食文化を育んできた地でもあります。

また、年間を通して日照率も高く過ごしやすい気候風土に加え、この地に住む人々の明るく、素朴で温かみのある人情や「お接待の心」は四国遍路文化により培われたもので、地元の自慢であり誇りであります。

このように、徳島県は、今わが国で失われつつある「ふるさとの原風景」や「田舎」の良さ、素晴らしさに満ちあふれた地であり、喧噪の都会に住む人々にとっては「癒しやすさの心」を肌で感じ、身も心もリフレッシュして頂ける地であると思っています。

百聞は一見に如かず、言葉では言い尽くせない徳島県の魅力を体感して頂くため、室戸阿南海岸国立公園の一角にあって高知県との県境にある、徳島県南部エリア、「南阿波」をご紹介しますことといたします。

「南阿波」は、徳島の東南部、鳴門海峡と室戸岬のほぼ中心部に位置し、室戸阿南海岸国立公園内の黒潮洗う太平洋の海岸線に沿って美波町・牟岐町・海陽町の3町からなっています。

この地域の地形は山と海が近接していることから、山、川、海の恵みが豊かで、山では猪肉や鹿肉、山菜、川では鮎、鰻、川エビ、海では伊勢エビ、アワビ、鱧等の魚介類がたくさん捕れ、豊かな山が豊かな海を形成しているという証左であることがよく分かります。

その象徴として、牟岐町の沖合4kmにある牟岐大島の湾内には、高さ約9m、周囲約30mの世界最大級と言われている「千年サンゴ」(ハマサンゴ)が生息しています。通常サンゴは、1m成長するのに100年かかると言われていますが、サンゴ分布の北限域に近い牟岐大島では、さらに年月を要することから千年は経過しているのではないかと想定されています。海の中で千年の間、静かに命を繋いできた「千年サンゴ」の物言わぬ姿は、感動的であるとともに、この地の環境の良さを証明するものであるといえましょう。

このほかにも「南阿波」は、ウミガメが産卵する「大浜海岸」、四国一の大滝「轟の滝」、約1億4千年前に繁殖した植物化石といわれている「シラタマモ」が生息(世界で4カ所)する「出羽島」など、数えればきりが無い程、手つかずの豊かな自然がぎっしり詰まった魅力満載の場所です。

さて、私が「南阿波」をお勧めする理由は、「手つかずの豊かな自然」があるからだけではありません。「南阿波」には、特に、歴史的な伝統に支えられた住民の「お接待の心」が脈々と受け継がれ、素朴で人情厚い人々がとても多く暮らし、訪れる人々を温かく迎えてくれます。漁業や農業等の自然から糧を得る労働によって、顔や手には深い皺が刻まれています。その風貌からは、優しさや温かさが滲み出ているように感じられます。

そんな「南阿波」では、平成16年から教育旅行の受入れに取り組み、漁業体験や農業体験を通して、労働の苦勞や収穫の喜びを分かち合い、最も新鮮な食材と一緒に調理して食卓を囲む充足感を「都会」

のこども達に伝えてきました。

幸いにも、「南阿波」の地形は山と海が近く、早朝に漁に出掛け、日中は畑や田圃を耕す等、多彩な体験が出来るほか、豊かな自然のフィールドを活用したスポーツ体験や「貝殻のキャンドル作り」、「藍染め」等の製作体験、更には民泊体験にも取り組みなど、欲ばりな教育旅行が可能であり、大きな感動をもって子供たちの心に深く残っていることでしょう。

因みに、教育旅行を受け容れている団体名は、牟岐町役場に事務局を置く「南阿波よくばり体験推進協議会」です。子供達をお預かりするには、安全面に十分配慮する必要がありますので、地元の人々を対象にした研修会を年数回実施するなど、教育現場の事情に十分配慮した取り組みがなされています。

この地で、家族同然に一日を過ごす、学校や家庭で「やんちゃ」が過ぎる子供たちでも、素直な子供に変容し、おじいちゃんやおばあちゃんの言うことをよく聞くようになるから不思議なものです。

別れの日の光景でも、見ている私は、胸に込み上げる熱いものを押さえるのに必死でした。子供たちは、バスの窓から身を乗り出して、おじいちゃんおばあちゃんとの別れを惜しみ、見送る地元の人たちは、バスが見えなくなるまで手を振り続けていました。そんな、「南阿波」の人々の心と豊かな自然が、私は大好きであり、誇りに思っています。

このように、私たちの住む徳島では、何処でもたくさんの魅力に出会えることでしょう。是非一度お越しください。必ず、感動と優しさに包まれると私は確信しています。

その気になったら、ご一報くだされば、もろ手を挙げて歓迎します。

「南阿波よくばり体験推進協議会」(牟岐町産業建設課商業観光グループ)
電話：0884-72-2622

(徳島県観光協会 松浦 哲也)